



だより



R8.9.29 Vol.21

気持ちがいいです！

朝、通学路に出て、ハイタッチをして挨拶を交わすようにしています。その中で4年生の女の子の挨拶が印象的です。声もしっかり出ています。そして笑顔なんです。少し口角があがった素敵な表情です。「今日も頑張ろう！」というエネルギーをもらえている気がします。意識的に口角を上げて、笑顔を作るトレーニングがあります。もちろん表情をよく見せるためという面もあるのでしょう。

しかしこの「笑顔を作る」ということ、気持ちにも少し影響を与えることがわかっているようです。劇的な効果というほどではありませんが、「楽しいから笑う！」だけじゃなくて、笑顔を作ることで気持ちが明るい方向に動くことがあるようです。脳と表情は一方通行ではないらしいですよ。何より、その笑顔で私が気持ちよくなっていますからね。効果抜群では？(笑)

「トントントン」

校長室の引き戸をたたく音がします。振り向くと2年生の女子が二人。「なあに？」と出ていくと、「校長先生！四つ葉を見つけました！」と嬉しそうにクローバーを見せてくれました。「お！四つ葉やん！ラッキーやな。幸せになれるぞ！」と会話を交わした後、それを持って二人は教室へ帰っていきました。

校長室の椅子に腰かけた後、四つ葉を見つけてうれしくなる感受性が今も自分にあるのだろうかと思いました。歳を重ね、いろいろなことに慣れていくうちに新たな発見や驚きも少しずつ減っていくのかもしれませんが。「自分の感受性くらい 自分で守ればかものよ」茨木のり子さんの詩の一節です。

身体は間違いなく衰えていきますが、感受性はそうではない気がします。「トントントン」自分の心のドアも、ときどき自分でノックしておきたいですね。

四方山話松蔭 ver. 其の二十(焼き場に立つ少年)

今回の修学旅行で私は初めて長崎の平和記念公園を訪れました。広島とは違った雰囲気が流れており、私自身もまた見識を深めることができました。長崎の被爆地と言えば私の中で深く記憶に刻まれている写真があります。アメリカの従軍カメラマンが長崎の被爆地を回って記録に残した写真の中の一枚です。タイトルは「焼き場に立つ少年」初めてこの写真を見た時、裸足で口を真一文字に閉じて立つ少年の姿に大きく心が揺さぶられました。ぐっすり眠っているようにみえる背中の赤子は弟なんだろうか？妹なんだろうか？なぜそんな厳しい表情なのか？いろいろな考えが交錯しました。こちらをご覧ください→[教皇配布の「焼き場に立つ少年」カード、日本語版完成 | カトリック中央協議会](#)

そして戦争についての学びを深める中で、私の印象はさらに変わっていきました。それは写真のタイトルの意味がわかった瞬間でもありました。少年のおぶっている赤子はすでに息絶えているのです。おびたしい数の犠牲者を出した当時、夏であったこともあり、すみやかに荼毘に伏すために簡易的な火葬場が各所に作られました。少年はその順番を待っていたのです。この少年はどこから来たのだろうか？親は無事だったのだろうか？この後、どこへ行ったのだろうか？…佇む少年の姿に深いやるせなさが込み上げました。

教員になって、親になって、じいじになって、繰り返し、この戦争に触れる時、その度に新たな思いが自分の中に溢れてきます。今回、6年生の子どもたちの感じたこと、考えたことは、今はまだ、うまく言葉にならないものもあるでしょう。マリンワールドや城島高原の楽しい思い出の中に紛れてしまうこともあるかもしれません。ただ、またいつかどこかでこの戦争に触れた時、この長崎で感じた何かを思い出してほしいのです。そしてその時の自分なりに、戦争とは、平和とは何かを考えてほしいのです。戦争の生みだすものの中に、この少年の悲しみがあったことを忘れないでほしいと思います。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思います。